



Title	分離臍ランゲルハンス島のインスリン含有量に及ぼす虚血の影響に関する実験的研究
Author(s)	中村, 正廣
Citation	大阪大学, 1990, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3052198
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍)	なか 中	むら 村	まさ 正	ひろ 廣
学位の種類	医	学	博	士
学位記番号	第	9368	号	
学位授与の日付	平成2年	10月	5日	
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当			
学位論文題目	分離臍ランゲルハンス島のインスリン含有量に及ぼす虚血の影響に関する実験的研究			
論文審査委員	(主査) 教授	川島 康生	(副査) 教授	垂井清一郎 教授 藤田 尚男

論文内容の要旨

〔目的〕

ランゲルハンス島（以下、ラ島）移植に際して、donor 脾はラ島分離操作に至るまでの間、虚血に晒される。虚血が分離ラ島のホルモン含有量あるいは分離ラ島機能に及ぼす影響についての系統的研究はない。本研究においては、分離操作開始までの虚血が分離ラ島のインスリン含有量およびインスリン分泌能に及ぼす影響を明らかにせんとした。

〔方法ならびに成績〕

方法：雑種成犬6頭を用いた。ネンブタール静脈麻酔下に摘出した全脾を直ちに均等に7分割した。分割脾の一片を直ちにラ島分離操作に供し、0時間虚血群（対照群）とした。残りの6片を以下の条件下に保存した；①4℃, Hanks液中（低温虚血群）, ②37℃, Hanks液中（温虚血群）, ③37℃, ビニールパックに脾片を納め脱気した（脱気温虚血群）。上記3条件下の保存を3時間および5時間行った後、直ちにラ島を分離した。各群より分離採取したラ島60個のうち20個をブドウ糖刺激試験に供し、30個を培養保存した。残る10個をインスリン含有量測定のため、-20℃に凍結保存した。1日培養後のラ島20個をブドウ糖刺激試験に供した。残る10個をインスリン含有量測定のために凍結保存した。ブドウ糖刺激試験は、ラ島10個を収容した容器内にて80分間にわたりブドウ糖濃度100あるいは300mg/dlにて施行した。

成績：

- (1) インスリン含有量；

①培養していないラ島；3時間ならびに5時間低温虚血群は、対照群に比べ有意差を認めなかった。5時間の温虚血群の $477 \pm 32 \mu\text{U} / 10 \cdot \text{Islets}$ 、脱気温虚血群の $418 \pm 180 \mu\text{U} / 10 \cdot \text{Islets}$ は、対照群の $1157 \pm 236 \mu\text{U} / 10 \cdot \text{Islets}$ ならびに低温虚血群の $1203 \pm 97 \mu\text{U} / 10 \cdot \text{Islets}$ に比べ有意に低値であった。②1日培養後のラ島；5時間脱気温虚血群を除き各群は、対応する培養していないラ島に比べ有意に低値であった。3時間ならびに5時間虚血の全群は、対照群に比べ有意の差は認められなかった。

(2) ブドウ糖刺激に対するインスリン分泌量；

①培養していないラ島；ブドウ糖濃度 100 mg/dl 刺激に対し、3時間ならびに5時間の低温虚血群および温虚血群は、対照群に比べ有意差を認めなかった。5時間脱気温虚血群は、対照群に比べ有意に低値であった。一方、ブドウ糖濃度 300 mg/dl 刺激に対し、3時間ならびに5時間低温虚血群および3時間温虚血群は、対照群に比べ有意差を認めなかった。5時間の温虚血群ならびに脱気温虚血群は、対照群に比べ有意に低値であった。②1日培養後のラ島；ブドウ糖濃度 100 mg/dl 刺激に対し、3時間ならびに5時間の低温虚血群、3時間温虚血群は対照群に比べ有意差を認めなかった。3時間脱気温虚血群、5時間の温虚血群ならびに脱気温虚血群は、対照群に比べ有意に低値であった。一方、ブドウ糖濃度 300 mg/dl 刺激に対し、3時間ならびに5時間低温虚血群は対照群に比べ有意差を認めなかった。3時間および5時間の温虚血群ならびに脱気温虚血群は、対照群に比べ有意に低値であった。また、全ての虚血群は、対応する培養していないラ島に比べ有意に低値であった。

[総括]

犬脾分離ラ島のインスリン含有量ならびにインスリン分泌機能に及ぼす虚血の影響を、虚血を経ない群を対照群として検討した。同じく、1日培養後のラ島についても検討した。その結果、以下の事実が観察された。

1. 3時間ならびに5時間低温虚血後のラ島のインスリン含有量は、対照群に比べ培養していないラ島において有意差を認めなかった。1日培養後のラ島においても同様に差異が認められなかった。
2. 5時間の温虚血ならびに脱気温虚血後のラ島のインスリン含有量は、対照群ならびに5時間低温虚血後の含有量に比べ有意に低値であった。1日培養後のラ島のインスリン含有量は、5時間の脱気温虚血群を除き、培養しないラ島のインスリン含有量に比べ有意に低値であった。
3. 3時間ならびに5時間の低温虚血後のラ島のインスリン分泌量は、対照群に比べ培養していないラ島において有意差を認めなかった。1日培養後のラ島においても同様に差異が認められなかった。
4. 5時間の温虚血ならびに脱気温虚血を経たラ島は、対照群のラ島に比べブドウ糖刺激に対するインスリン分泌量が有意に低値であった。3時間あるいは5時間の温虚血ならびに脱気温虚血を経たラ島は、1日培養後には、対照群のラ島に比べブドウ糖刺激に対するインスリン分泌量は有意に低値であった。また、1日培養後のラ島のインスリン分泌量は、培養しないラ島のインスリン分泌量に比べ有意に低値であった。

論文審査の結果の要旨

本論文は正常犬膵を用い、分離ラ島のインスリン含有量ならびにインスリン分泌機能に及ぼす虚血の影響を、虚血を経ない群を対照群として比較し、同じく、1日培養後のラ島についても検討したものである。その結果、(1)5時間までの4°C、低温虚血後のラ島のインスリン含有量およびインスリン分泌量は、対照群に比べ有意な差を認めなかったこと、1日培養後のラ島についても同様であったこと、(2)5時間の37°C、温虚血後のラ島のインスリン含有量および分泌量は、対照群に比べ有意に低値であったこと、1日培養後には、3時間の温虚血でその分泌量は低下すること、(3)1日培養後のラ島は、培養しないラ島に比べ含有量および分泌量ともに低下すること、を明確にしている。